

## 日本ロレンス協会ニューズレター No. 46

2024年3月30日

日本ロレンス協会 会長 石原 浩澄

副会長 木下 誠

### 第55回 全国大会のお知らせ

この「ニューズレター」が届くころには新緑の季節となっていることと思いますが、会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2024年度の日本ロレンス協会第55回大会は、岩井学先生のご協力を得まして、来る6月22日（土）に神戸市の甲南大学にて開催されます。昨年度大会における総会、ならびに前回のニューズレターでもご確認いただいておりますように、発表等の準備状況に鑑みまして、今年度も土曜日一日開催となりますことをご承知おき頂きますようお願い致します。以下、簡単に大会当日の予定をお知らせいたします。

今年度の大会は、開会宣言に続きまして、2つの個人研究発表、シンポジウムひとつ、続いて総会を予定しています。

まず、研究発表です。今大会は、大江公樹氏（早稲田大学大学院）の「『白孔雀』の絵画性」と題する発表で幕を開けます。ロレンス最初の長編小説『白孔雀』の「絵画性」に着目し、語りの形式の問題ともからめた発表になるようです。司会は北九州市立大学名誉教授の田部井世志子氏です。続いての研究発表は近藤康裕氏（慶應義塾大学准教授）によるものです。論題は「“Men in Love” 再考——初期草稿から *Women in Love* へ」です。小説のタイトルと物語の中で展開される“love”との間に感じとれる違和感を切り口に、初期稿から最終稿へのテキストの異動を分析しながら、作者の代表作に新たな視角から取り組もうとする研究のようです。高村峰生氏（関西学院大学教授）の司会によって進められます。

個人研究発表に続きまして、「日本における初期のロレンス受容をめぐって」と題してシンポジウムが開催されます。不肖、石原が司会を務めます。日本ロレンス協会の設立から半世紀以上、またロレンスがわが国に紹介されてから1世紀以上を経た今日、比較的初期のロレンス受容のあり方に目を向けることは、今日のわれわれの立ち位置を再確認する上でも意味があるのではないかとの考えから、今回のシンポジウムは企画されました。石原が簡単にわが国におけるロレンス受容の歴史について年表式に振り返りながら導入をします。続いて、浅井雅志講師（京都橘大学名誉教授）の発表では、土居光知と寺田健比古を中心として、否定的・肯定的、両極の論を検討しながら、ロレンス受容の一側面に迫る試みがなされます。続く新井英永講師（熊本大学教授）の関心は、福田恒存のロレンス受容です。著名な思想家であり、ロレンス論も残している福田恒存ですが、ロレンス研究史における福田への注目度の相対的低さという点も指摘しながら、福田恒存とロレンスの問題について、「近

代」の文脈を視野に入れつつ考察されます。続く石原は、前2者とは少し違う角度からわが国におけるロレンス受容を考えたいと思います。ロレンスの初期の受容者を代表する一人としての批評家 F.R.リーヴィスに着目し、そのリーヴィスが日本でいかに受容されたかという観点から考えてみたいと思います。フロアーの会員におかれては、それぞれのロレンス批評史観と照らし合わせながら、共同討議に参加いただければと考えています。

シンポジウムに続きまして総会を開催いたします。今回の総会では、会員名簿の今後の取り扱いに関する執行部提案も予定しています。その他の案件につきましてもご議論をお願い致します。

総会終了後、コロナ禍以降開催できていませんでした懇親会を企画しています。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

(なお、役員会につきましては、本年は大会前々日にオンラインでの開催を予定しています。役員の方々には追ってご案内申し上げます。)

\*\*\*\*\*

以下、協会事務局よりいくつかのお願いと報告をさせていただきます。

1. 会費納入は同封の郵便振替用紙をご利用ください(手数料は協会負担)。会費は、一般会員は 5,000 円、役員は 10,000 円(但し顧問と退職した役員は 5,000 円)です。永久会員の制度があります。詳細についてはホームページ(<http://dhlsj.jp/dl/syushin.pdf>)をご覧ください、ご活用ください。
2. 同封の会員名簿の住所、所属、e-mail、電話番号等に変更がある場合は、同封の返信葉書でお知らせください。
3. 専任職に就いておらず、かつ公的な機関から研究費を受け取っていない日本ロレンス協会会員に対して、日本ロレンス協会大会で研究発表(シンポジウム講師等の担当を含む)をする場合、協会で旅費・宿泊費の補助を行う制度があります。詳細については協会ホームページをご覧ください、ご活用ください。

それでは、みなさま、6月に神戸でお会いいたしましょう。